地方通信

福島縣須賀川に殘る古墳

慶應義塾大學講師柴田常惠氏は軍事保護院鹽崎技師の案内で過日須賀川町に至り、曩に同町芦田塚地内の傷痍軍人療養所敷地より發掘された先住民族の古墳や土器類をつぶさに調査して歸京した。土器類はつぼ、たかつき、その他碗様のさまゞなものでアイヌ式のものはなく、殆ど全部が大和民族の使用したものであることが判明した。柴田博士はその附近一帶を調査した結果、地下二尺二三寸の個所に圖らずも當時民族の住居の跡である厚さ三寸位の粘土で土臺を堅めた跡や焚火の古蹟を發見したが、更に地方民が發掘すると眼が潰れると云ひ傳へた二つの塚につき入念に調査した結果、意外にもまことに貴重なる方基圓墳であることが判明、直ちにその筋にも報告することになつた。方基圓墳は極めて珍らしき古墳にして容易に發見されないものであり、畏くも天智天皇の御陵がこの種の墳と云はれ、近年最も高貴な方々に右の方式が使用されるに至つたと云はれる。右につき柴田博士は語る。

「古墳やその他年代などははつきり今いふ事は出來ないが、方基圓墳は極めて高貴の方に使用された墳で一般にはあまり使用されない。土器類は大和民族が食器などに使用したもので、殆ど全部が土師器で一部に奈良朝時代の波形紋や大陸文化の輸入によつたもの。即ち須惠(陶)の類もあるようだ。どうしてこの種の色々のものが同じ場所に發掘されたかについてはなほ充分研究して見なければならぬが、この住居の跡といへ焚火の跡といへこれは先住民族の生活した跡である事は確かである。なほ古墳については如何なる墳であるかは別として極めて考古學上貴重なるもので容易に得難いものである。」

兵庫縣下の新様式コンクリート橋近く竣工せんとす

兵庫縣美方郡岸田川の大改修工事は、十三年二月工を起したが順調に工事の進捗を見、濱坂町清富橋より下流の新川竣成を遂げ既に通水式を行ひ新水が流れてゐるまた第四工區(温泉町)も竣工、第三工區(同町井上)および第二工區(大庭村)は近く竣工の豫定である。これに架設される清富橋、福富橋、戸田橋、新市橋、金屋橋、田合橋、竹田橋の各橋梁は竣工殘るは七釜橋と田君橋二橋はいま架設工事中であるが、

各橋梁は何れもコンクリート橋臺または木製でコンクリートにも必ず欄干を木製とした處に新鮮味がある。これは曩に二、三箇所に架設されたコンクリート橋梁が偶々九年の大洪水に際會して水を冠り泥流は附近堤防、道路、耕地、建造物等に莫大の被害を與へたのに鑑み、コンクリートの欄干も取毀して木造に改變し萬一の洪水に備へたものである。現在工事は第一工區中大庭村戸田部落附近の新線、河線變更地點に全力が注がれてゐるが、今秋五年ぶりにこの新川の通水式を擧行する計畫となつてゐる。

島根縣雪中の隧道開鑿の用水大改修

鳥取縣の實庫と呼ばれる東伯郡北條平野一千百町歩の大穀倉の生命線北條用水の大改修工事はその後着々として進捗してゐるが、最大難工事と目される倉吉町三明寺山の胴腹をぶち拔く隧道式用水路は、四尺に達する積雪猛寒と戰ひながら默々として續けられ、倉吉側、北條側の兩方面から開鑿が行はれて、既に倉吉側は百五十餘米の隧道開鑿に迄こぎつけ、明年迄には感激の貫通をみるものと期待されてゐるが、現場にはあらゆる困苦と苦難と戰ふ泪ぐましい精進が行はれ、やがて開く大穀倉の完成へと潑剌たる逞ましい行進が續けられてゐる。總工費は六十萬圓で同隧道の大きさは延長一千五百七十七米、高さ二米一、横二米でこれが完成の曉は倉吉町民二萬名を收容し得る防空壕として活用出來、又同隧道の落差を利用して動力が考究され、縣當局でも動力事業の施設を考慮中で、これが改修の結果、米の增收一千五百二十一石の實現が期待されてゐる。

山口縣下德山市の產業道路竣工を急ぐ

山口縣下に於て德山—室積を結ぶ國道產業道路は下松地區（下松警察署—荒神川）及び（戀ケ濱—光驛間）を殘すのみで大體貫通するわけであるが、下松市では決戰下の交通路の確保を期するため、工事期間十七、十八兩年度分を切上げ、明十七年度中で完成すべく縣當局に申請中である。縣當局もその意向の如くで、先づ下松署—荒神川間延長三千米を明年度早々着工される方針となつてゐるので、多年宿望の大產業道路の急速に完成の運びとなるわけである。なほこの三千米の總工費は約六十萬圓である。

德島縣下道路愛護會の活動

德島縣板野郡板西町道路愛護會では二月二十一日を期し、各部落會員一千二百名の協力に依つて府縣道及び町道に到る町内の各道路を修理淸掃し、愛護精神を涵養する處があた。

德島縣國道二十一號線の工事進捗す

徳島市、撫養、阪神を連絡する國道二十一號線道路第十一期工事は、六年度（三月末迄）に於て二十四萬圓の工費を以て吉野橋から當三島町に至る千百米の道路を竣工の豫定で目下進捗中であり、十七年度は引續き助任橋に向つて工事を進める方針である。

高知縣下林道の大開發

眠れるお山の資源を開發し軍國のお役に立てようとの十七年度高知縣林道網開發事業については、縣よりかねて農林省宛計畫全貌を具して上申中のところ、この程事業費並にこれに對する國庫奬勵金交付額の内示が屆いた。それによると事業費は本年度に比し四萬千七百九十七圓を增し、總額五十三萬六千圓、うち工事費四十八萬九千八十圓で、これに對する國庫奬勵金二十萬六千六百圓が交付せられるはずである。又これに要する縣費補助額は八萬五千五百九十一圓、地元負擔額は二十四萬四千五百四十圓の豫定となるが、縣費補助金額については、多分二月の縣參事會において十七年度追加豫算として上程審議されることゝならう。なほ開發事業の内譯を種類別に見ると民有林開發林道一般林道三十四萬五千五百三十圓（一般林道）同上（瓦斯炭林道）七萬六千八百圓、共同施設林道四萬八千三百八十四圓、簡易林道一萬八千三百六十六圓となつて居り、これらの開發によつて用材三十三萬六百石、炭材五十八萬五千八百石を增産する計畫である。縣では三月末までに縣下全般に亘り未開發林資源を再檢討のうへ、この資源開拓の動脈として林道網の開拓路線を選定し、設計のうへ主務省へ上申することになつてゐる

宇宙に冠たり、國體の精華

世界を驚かしたるドイツの生産力、工業力は專らヒットラアー總統の指導者原理によりて推進せられたのである、命令することに非ずして、實踐躬行して模範を示すことである。學者によりて研究されつゝある獨逸の指導者原理は夙くの昔に　明治陛下によりて實踐されて居るのである。身骨を勞し。心志を苦しめ、艱難の先に立つと仰せられたのは指導者原理を日本的なる至純至高の形に於て御示しになつたのである。畏れ多くも日本の　天皇陛下は民の安からざるを見れば身を責められ、國威の擧らざるを見れば身を責めらるゝのが常である。どうです、その　陛下の御聖德の前には言うに足らざる已の能力、已れの地位、それを有することを恃みて、身を責めずして、人を責むるが如き者なくば、それこそ眞に聖德への罪人である。非常時戰鬪態勢を惱ます獅子心中の蟲である。（中野正剛）